

学校名	明治学園高等学校
授業者	古瀬 博基

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

「仮説の検証」と「発表」

1-2. 学年

高校2年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

課題研究

1-4. 単元の概要

単元1「調査の実施と仮説の設定（インタビューとフィールドワーク）」を学習した生徒対象に実施する。

生徒の活動①

「天籟寺地区の水害対策は、誰が何を行うべきか」という問いに対する仮説を検証する。天籟寺地区において必要とされる水害対策を考察し、対策の有効性の検証を行う。

生徒の活動②

校内発表会に向けて、発表スライドと原稿を作成する。発表リハーサルを行う。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

単元1において「仮説の設定」を行った直後に、「仮説の検証」を行わせることにより、生徒に研究メソッドを習得させることが本単元のねらいである。また、活動内容をスライドと原稿にまとめ、発表練習し、聴衆の前に立ち、実際に発表させることにより、主体的な研究活動を行うことの楽しさ、喜びを経験させることも本単元のねらいである。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

社会的課題に取り組む主体性
研究メソッドの習得

1-7. 単元の展開（全 6 時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	「仮説の検証」に向けて準備を行う。単元1で得られた仮説について振り返り、自分たちに検証可能な仮説であるかを検討する。必要に応じて仮説を修正する。	単元1の学習内容の振り返りを支援する。具体的には、単元1で設定した「仮説」について、①高校生にとって検証可能であるか、②限られた時間内に検証可能であるか、という観点から、「仮説」の点検作業を行うように生徒に促す。
2	仮説の検証方法を考える。仮説が複数項目にわたるものである場合、どの項目に絞って検証を行うかを決定する。検証項目を決定した後、実際の検証方法を考える。	生徒が設定した仮説が複数項目にわたるものである場合、高校生レベルで短期間に検証可能なものを選択させる。また、検証方法はコロナ禍においても可能なものを考えさせる。
3	「仮説の検証」を行う。インタビューやアンケートによって情報収集を行い、得られた情報に基づいて考察する。	インタビューやアンケートの結果を適切に扱うように指導する。随所随所で質疑を行い、結論ありきの解釈を行っていないかをチェックする。
4	発表準備。文章を書く。最終的には発表用の原稿に仕上げることが意識し、「課題→リサーチクエスチョン→調査→仮説→仮説の検証」という流れで執筆する。原稿作成を通して、研究活動を振り返り、研究メソッドの習得を確かなものにする。	課題研究の各ステップ（課題→リサーチクエスチョン→調査→仮説→仮説の検証）ごとに活動内容をまとめるように適宜指導する。
5	発表用スライドを作成する。情報を詰め込み過ぎないように注意する。発表原稿の理解を助けるビジュアル資料を用意する。	スライド作成時の注意事項を伝える。発表内容の理解を助けるスライドとはどのようなものかを教え、作成を支援する。
6	発表リハーサルを行う。	発表内容が、課題研究の各ステップを意識した構成になっているかを評価する。とりわけ「仮説の設定」と「仮説の検証」を分かりやすく伝えられているかを確認する。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

発表用原稿を作成する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
①課題について書く。 ・「北九州市戸畑区天籟寺地区の水害発生状況」について具体的に書く。 ・聴衆が天籟寺地区の地理的状况を知らないことを前提に分かりやすく書く。	・聴衆が「天籟寺地区」について疎いことを意識させる。 ・何が課題であるかを明確に記述するように助言する。
②リサーチクエスチョンを書く。 ・どのような問いを立てて、調査（インタビューとフィールドワーク）を行ったかを明確にする。	・リサーチクエスチョンを具体的に記述するように助言する。
③インタビューについて書く。 ・どのような対象にどのような質問を行い、どのような明らかになったかを分かりやすく書く。	・インタビューで聞き取った多くの情報から、「仮説の設定」に役立った情報のみを精選して書くように助言する。
④フィールドワークについて書く。 ・どのような目的でどのように移動し、どのような発見があったかが伝わるように具体的に書く。	・フィールドワークで発見した多くの事柄から、「仮説の設定」に役立ったもののみを精選して書くように助言する。
⑤仮説について書く。 ・仮説が複数項目にわたる場合には、ひとつひとつを分けて簡潔に書く。	・仮説がリサーチクエスチョンに対する仮の答えであることを意識させる。
⑥仮説の検証について書く。	・インタビューやアンケートなど検証の際に、何をおこなったかを具体的に書くように助言する。

3. 今回の活動の自己評価

○生徒たちは、課題研究の各ステップ（課題→リサーチクエスチョン→調査→仮説の設定→仮説の検証）を常に意識しながら活動していた。そのため、発表原稿の作成の際にも、自分たちが行ってきた活動を振り返りながら、ステップごとに内容をまとめ、文章を記述することができていた。

○生徒たちが完成させた発表原稿を読むことにより、彼らが研究活動の流れを習得したことを確認することができた。

▲原稿作成の際、発表会の聴衆がどのような人たちであるかを想定させることが難しかった。研究内容をまとめるだけでなく、その内容をいかにして聞き手に伝えるか、というスピーチ・コミュニケーションに関する指導が不十分であった。

4. 今後の課題

課題研究の発表原稿は、研究論文としての性格もあるが、基本的にはスピーチ原稿であることを生徒も指導教員も意識すべきである。いかにして聴衆の興味を引き付けるか。そして、研究の成果を共有し、ともに課題について考えさせるにはどのような原稿が適切か。生徒にコミュニケーション力を身に付けさせる活動を考案し、本単元に組み入れることが今後の最大の課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

生徒のために発表機会を確保しなければ、生徒の発表に向けてのモチベーションを引き出すことは難しい。コロナ禍にあっては発表機会の確保は難題である。様々なオンライン発表会も視野に入れて情報収集を行う必要がある。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。